

国登録有形文化財

能代市観光交流施設

旧料亭金勇 かねゆう

ご案内

- 見学時間…9:30～16:30
- 入館料…無料
- 案内料…1人300円(要予約)
団体割引(21人～)1人270円
- 休館日…年末年始(12月29日～1月3日)

- 貸出料(1時間あたりの料金)
貸出時間…9:00～21:00

部屋名	9:00～18:00	18:00～21:00
有明(8畳)	90円	110円
吉野(10畳)	110円	130円
川風(12畳)	130円	160円
満月(42畳)	320円	380円
大広間(110畳)	800円	960円

※営業利用の場合は1.5倍

※冷暖房費(1時間あたり)

有明・吉野・川風 100円 満月 400円 大広間 900円

食事手配…ご希望のお部屋へお食事等を手配しております。
事前にご予約ください。

部屋貸出…食事での利用の他、催し物や展示会等にご利用いただけます。



交通案内

- JR五能線 能代駅より徒歩10分
- 能代東IC、能代南ICより車で15分
- 駐車場完備 大型バス・マイクロバス可

Free Wi-Fi

お問い合わせ

能代市旧料亭金勇 〒016-0825 秋田県能代市柳町13-8
☎0185-55-3355

kaneyu@shirakami.or.jp
http://www.kaneyu.jp

天然秋田杉の殿堂 旧料亭金勇

能代市は米代川の河口の町として発展し、秋田杉の製材を中心とした木材加工の町として栄えました。明治中期、秋田木材株式会社を設立した井坂直幹(いさかなおもと)が機械製材を導入してから木材加工業は急速に発達し、市内には製材工場が立ち並びました。製材された材木は国内のみならず海外まで輸出され「東洋一の木都(もくと)」と称されるまで発展しました。

七つの大屋根を持つ入母屋が特徴的な数寄屋造りのこの建物は、栄華を極めた材木界の迎賓館として、取引先の方々をおもてなしするために昭和12年に建てられました。天然秋田杉の良材を余すことなく使用した上品な造りが今も見るものを魅了します。木材加工で栄えた「木都」の栄華を今に伝える貴重な歴史的建築物です。

旧料亭金勇の歩み

- 明治23年(1890年) 初代金勇助 柳町に貸座敷の開運楼を創業
- 明治26年(1893年) 4月 政談演説の場として現在地に山本倶楽部を建築 他に劇場の米代座、能代公園の和洋料理 紫明館(昭和7年焼失)を経営
- 明治38年(1905年) 12月 柳町に火事があり開運楼が全焼
- 明治39年(1906年) 9月 開運楼を再建し金勇楼と称した
- 明治45年(1912年) 7月 柳町に再度火事があり金勇楼が全焼 再建後、山本倶楽部別館と称した
- 昭和12年(1937年) 2代目金谷勇助、山本倶楽部を解体し金勇倶楽部として建て替え 8月着工 9月上棟式 11月10日竣工 大工45人、人夫20人を常用
- 昭和26年(1951年) 料亭金勇へ名称を変更
- 昭和32年(1957年) 10月 別館解体に伴い玄関を改築し厨房を増築 舞台を改修し空調を取付
- 昭和45年(1970年) 大広間舞台の織帳を新調
- 昭和54年(1979年) 上げ汐の間、曙の間などを増築
- 昭和58年(1983年) 日本海中部地震により一部損壊 大広間の照明などを改修
- 平成10年(1998年) 10月 国登録有形文化財に登録
- 平成20年(2008年) 8月 料亭金勇閉店
- 平成21年(2009年) 3月 4代目当主、能代市へ土地建物を寄贈
- 平成25年(2013年) 増築部分を解体し耐震補強工事 12月 観光交流施設能代市旧料亭金勇として開館

1 満月の間

天井一枚板が見事な1階、満月の間。1本の木から5枚取られた長さ5間(9.1m)の中全天井板は木挽き職人が1枚を3日程かけて挽いたものです。長尺の長押も産地ならではと言えます。



2 有明の間

当時の最先端技術であった^{まさ}柱単板を張った柱や^{まさ}張^{まさ}柱天井板などの見本として造られた部屋です。貴重な初期の^{まさ}張^{まさ}柱製品を見ることができます。



11 大広間

樹齢260年以上、直径2メートル級の天然秋田杉から伐り出した畳1畳の^{まさ}全目板を^{まさ}卍型に配する「四畳半仕切り格天井」が見どころです。広さ110畳の大空間は側面に壁がなく小屋組みにはトラス構造が用いられ洋風建築の技術が取り入れられています。



床の間・床柱

幅5間半の床の間は、110畳の大広間に見合った格調高い空間を作り出しています。

丹念に磨きあげられたイタヤカエデの床柱は十和田湖畔から伐り出されたものでどっしりとした独特の存在感を放っています。



舞台

往時には能代芸者が手踊りを踊っていた舞台。完成当時は箱舞台でした。



花籠

竹と木の根で編んだ花籠で、2代目当主自ら京都で買い求めたものです。形といい、大きさといい大変珍しいものです。



硝子戸・建具

建具はすべて能代の建具職人によって作られました。柔かな揺らぎの硝子は建設当時のものです。1間幅の硝子障子と襖は^{まさ}巻^{まさ}巻^{まさ}です。



3 浅黄の間

侘茶の草庵風小座敷。広く見せるため床柱を切断し袖壁を切り欠いています。天井は^{まさ}全板と皮付きの^{まさ}樅^{まさ}で仕上げています。



4 廊下

長さ25メートル、幅1間の1階廊下は、継ぎ目のない特注の^{まさ}上敷^{まさ}がしかれています。



5 川風の間

欄間の「割氷の紋様」が特徴的です。3代目当主がこの紋様を好み金勇の銚子と盃の模様に使いました。



6 田毎の間

政治家や上客が会合や商談に利用した部屋です。^{まさ}卍^{まさ}張りの折上天井は^{まさ}全板や^{まさ}絞^{まさ}り丸太、^{まさ}網^{まさ}編みなどが使われ大変凝った造りとなっています。



7 吉野の間

天井が^{まさ}柱^{まさ}板と^{まさ}蒲^{まさ}で分かれ、上座と下座がはっきりしている点が特徴的です。



8 上げ汐 9 曙 10 多津美

江戸時代から一子相伝の技により継承されてきた能代の伝統工芸品「^{まさ}春慶塗^{まさ}」(故東山鉦平氏寄贈)の他、現代の名工武田久雄氏作組子入仕切戸「松陰風光」、金勇大広間で開催された^{まさ}囲碁本因坊戦ゆかりの品々を展示しています。



2階

